

# TOPICS

## IT企業からDX企業へ ～富士通が目指すDXビジネス～

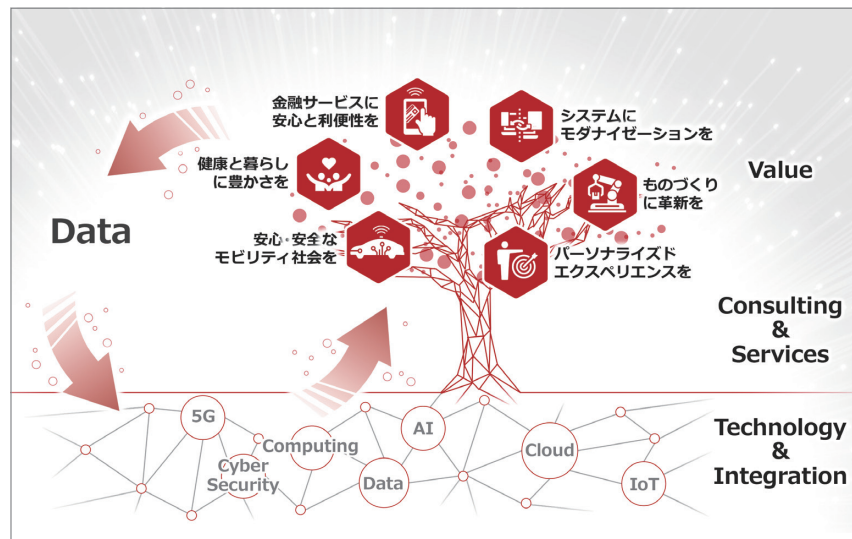
2022年度の経営目標\*1(売上収益3兆5千億円、営業利益率10%)の達成を目指すため、当社は自らを変革し、環境、社会、お客様の課題解決への貢献を通じて、DXビジネスを拡大します。

\*1 P1「2019年度 計画/2022年度 目標」ご参照

### 富士通の目指す姿



### 富士通が目指すDXビジネス

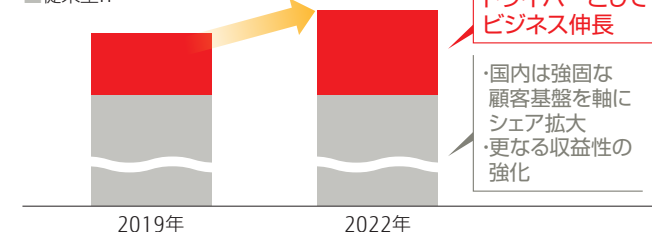


### 基本方針

**DXを含むデジタル領域\*2を成長させるとともに、従来型ITについても強固なビジネス基盤をベースに収益を拡大します。**

#### 売上イメージ

■ デジタル(DX+モダナイ)  
■ 従来型IT



\*2 デジタル領域:DXに加え、DXに向けたモダナイゼーション\*3・可視化・効率化等を含む

\*3 モダナイゼーション:現状の資産を活用しながら、変化対応力を備え、先進技術を素早く活用できるシステムへ変革していくこと

この基本方針の下における収益性強化のための主な施策をご紹介します。

#### ①DXビジネスの拡大

当社のテクノロジーと強固な顧客基盤に支えられた業種業務のノウハウを活かし、お客様や社会が求める価値を実現するDXを追求します。このDXビジネスを牽引するDXに特化したコンサルティング会社を設立し、富士通グループのビジネスへの波及効果を含め、連結ベースで3,000億円のDXビジネス創出を目指します。また、DXを支えるテクノロジーとして、重点7技術領域にリソースを集中し、強化します。さらに、スーパーコンピュータなどの最先端技術、DXビジネスの成長を支えるAIや5Gといった分野、新規事業創出および社内改革などに対し、今後5年間で5,000億円の投資を実行します。

#### ②サービスビジネスの利益力強化

国内の強固なビジネス基盤を堅持するとともに、2022年度までに700億円の利益改善を目指します。お客様システムや業務に対する豊富な知見をベースに信頼性の高いモダナイゼーションを加速します。あわせて、当社のグローバルデリバリーセンター\*\*をオフショア開発の拠点として戦略的に活用し、コストを効率化します。開発や運用のテンプレート化やAI等を活用した自動化を推進し、生産性を向上させます。

\*4 グローバルデリバリーセンター:世界8カ国に展開している、アプリケーションサービスや多言語対応サービスデスク等、世界中のお客様に標準化された高品質なサービスを提供する拠点

#### ③5Gネットワークビジネスへの取り組み

2019年7月に、NTTドコモ様に5Gネットワーク向け基地局制御装置および無線装置の納入を開始しました。無線アクセスネットワーク分野におけるエリクソン社との戦略的パートナーシップによる開発の効率化や5Gを支えるフォトニクス事業の光高速化技術への集中投資等により、5Gネットワークの普及を促進します。また、遠隔医療や自動運転といった様々な分野において、お客様のDXを実現するために、長年の通信キャリアビジネスで培った技術や人材をネットワークコンサルとして活用します。